

別紙様式3

平成29年度 第2回 地域連携による活力ある学校づくり推進協議会 議事要旨

日 時	平成29年9月3日(日) 13:00~14:30
場 所	吉城高等学校 会議室
出席者 (敬称略)	<p>布俣 正也 岐阜県議会議員 都竹 淳也 飛騨市長 山本 幸一 飛騨市教育委員会 教育長 向川原眞郷 古川中学校長 三橋 浩之 国府中学校長 田中 晶洋 ブライトスタッフ(株) 代表 渡辺 正憲 (株) 飛騨ダイカスト代表取締役 岡山 正喜 アルプス薬品工業(株) 取締役総務部長、飛騨 City 人材会議監事 松場 慎吾 合同会社 hidaiiyo 共同オーナー、旅ジョブ代表取締役 関口 祐太 (有) 関口教材店、チームフロー認定メンタルコーチ 川上 佳洋 「夢のたまご塾」飛騨アカデミー実行委員長、中部日本新聞社高山 中日文化センター専任講師 仲島 豊 吉城高校育友会長 上臺 勇 吉城高校同窓会長 石原 典子 学校評議員(民政委員・主任児童委員) 稲葉 佳代 学校評議員(主婦) 尾賀 眞平 学校評議員(尾賀書店) 後藤 洋平 学校評議員(青年会議所理事) 洞 宏樹 学校評議員(卒業生の保護者) 布施 明彦 岐阜県教育委員会 教育総務課長</p> <p>以下、学校関係者 鈴木 健 吉城高等学校 校長 細江 雅紀 同 教頭 秋月 正幸 同 事務長 下嶋 和長 同 生徒指導主事 小原 誠 同 教務主任 藤守 学 同 進路指導主事(記録)</p>
議事概要	<p>1. 吉城高校の方向性について</p> <ul style="list-style-type: none"> この改革案は県教育委員会『県立学校活性化の基本方針(グランドデザイン)』にも添ったものである。 第1回協議会における委員のご意見に添う形で改革案を提案したい。 <p>2. 先進校視察報告について</p> <p>(1) 長野県立白馬高校 観光を担う人材育成のため地元自治体が学生寮や公営塾などの財政支援をしている。ただし、特殊な学科の設置は地元中学生に敬遠される傾向がある。</p> <p>(2) 富士市立高校 地域と連携した探究型学習は本校の目指す方向として大変参考になる。本校も年次ごとに計画的に実践をすることが必要である。</p>

3. 地元企業リサーチについて（本校生徒職員と大正大学が共同で調査）

[大正大学からの提案]

吉城高生が地域行事等を活用して人間関係を上手に形成し、思いを共有することにより、大学等へ進学した後に『帰郷して貢献したくなる気持ち』が自然に高まるようにする。帰省時等に交流を重ねて、インターンシップ等へとつなげ、その延長線上で採用が実現する仕組みを作ってはどうか。

【委員意見】

- ・地元企業の我々と学生との間に温度差を感じる。地域のしがらみが嫌で帰ってきたくないという若者も多い。
- ・ヒアリング調査に来た大学生が「当社に対し魅力がある」と答えてくれて自信をもった。
- ・企業とのつながりを増やすために、例えば、アルバイトを単位認定するような仕組みを考えてはどうか。
- ・地域行事に参加するのは異年齢の人とのコミュニケーション能力が身に付くのでよい。しかし、大学へ進学すると様々な関心が高まり、彼らの認識が地域企業の採用に関するニーズと合わなくなる部分がある。
- ・祭などの地域行事に参加するのは中学生までで、高校生になると関係が切れてしまう印象がある。自分の会社では、大学を出た語学堪能で視野の広い人を採用したいと思っている。
- ・自分の同級生は、高校卒業後、多数が福祉方面に進んだが、その後他業種に転職した。視野を広げてから職業選択をさせることが大切ではないか。

4. 学科・コース等について

[学校としての提案]

「理数科」：理数科の特徴は生かしながら、特進科として進めたい。

「普通科」：YCK（吉高地域キラメキ）プロジェクトの活動を授業にも取り込む。

「総合コース」において新設科目を設定。「生活福祉」「地域政策」

「国際観光」（平成32年実施）等を考えている。

【委員意見】

- ・教員も多忙であるので、YCKに専門で関わる教員が必要ではないか。
- ・高校生になると地域との関わりが薄くなる。高校生と地元住民との繋がりをもつことは大切である。単発の活動では課題解決力を伸ばすことができるのか疑問なので計画的に進める必要がある。
- ・地域連携等もよいが、やはり、吉城高校にとっては進学希望の生徒をどう伸ばすかが重要ではないか。

5. 単位制について

[学校としての提案]

「単位制」のメリットを生かし、幅広い進路希望に対応したい。特に進学希望者の選択に幅をもたせるようにする。単位制になることでの問題点は特に聞いていない。単位制に関しては平成31年度からの実施を県に提案したい。平成30年度は学年制の中で準備できる科目を設定する。単位制を導入することで、国公立大学に行きたい生徒が十分合格できる力をつけられるような体制を整えるとともに、今まで以上に幅広い学力層や進路希望にも対応できるようになる。

【委員意見】

- ・小中学校でも子どもも家族も多様化している。吉城高校がどの子にも幅広く対応する方向で改革を進めることを聞き、安心した。

6. 「コミュニティースクール」について【参考として紹介】

[学校としての提案]

これまで以上に地域と連携し、意見を求めることでよりニーズに応えた教育を実現できる。

【委員意見】

- ・高山市の高校にない特徴を出していくことが大切。市が高校の教育課程に関われる今回の提案はよいと思う。まさに「コミュニティ・スクール」の発想である。

7. 「くくり募集」について **【参考として紹介】**

[学校としての提案]

定員減となる場合は、多様なコース選択を維持するために考えられる。

【委員意見】

- ・くくり募集で普通科と理数科を入学後に選択できるようにするのはよい。
- ・多様な進路希望の対応するためにくくり募集をするのはよい。コース選択をどうできるのかを中学生や保護者に分かりやすく説明することが大切。

8. その他

- ・高校の授業は講義形式になりがちだ。小中高のリレーを大切にして授業改善に取り組んでもらいたい。
- ・子どもの数が減る中で、地区内の高校全体をどうしていくのかを考えていくことが必要ではないか。
- ・今回の提案は、仮に定員減になっても教育の質を維持するためのものである。

【県教委より】

幅広い進路希望に対応するために、今回の提案の取組の方向性は理解できる。県教委として平成30年度入学生に対して、居住地域に関わらず選択肢を増やすために普通科学年制の学校にも全県一区を導入する。県外募集についてもまず、対象高校で導入する。高校でも生徒が自分の根っこは地元にあることをしっかり認識できるような教育が大切である。

※ 箇条書可。枠は必要に応じて拡大または縮小いただいて結構です